

わたしたちの人権 71
だれもが人間として生きていくうえで
優ずることのできない当然の権利
これが「人権」です

子どもの人権作文

12月の人権旬間に合わせて、子どもたちが書いた人権作文の中から、5名の作品をご紹介します。(18・19ページに続きます。)

「負けない心」

矢部中学校 3年 橋本 真佑



みなさんは、障がいがある人をご
のような目でみていますか。私は生
まれ付き右足が悪くて今年の1月に
手術をしました。それからのこと、
どこに出かけても見られてしまいま
す。時にはかげ口を言われたり、ク
スクス笑われたりしています。けれ
ど私は負けたくないので見られても
笑われても必死に我慢していました。
しかしこの前、家族と買い物に

行った時に、1人の親子がいました。
小さい子が「あの入、靴が変。」と
言っていて私は黙っていました。す
るとその親が「みたらうつるけん見
たらダメ。」と子どもに教えていま
した。とても辛くて泣いてしまいま
した。他にもこれ以上に辛いことも
言われてきました。

みなさんはこういうことを聞いて
どう思いますか。私はおかしいと思
います。なぜ同じ人間なのに、外見
などで判断したり、一部が違っただ
けで「あの人はうだ。」と区別され
るのでしょうか。その人は安易な気持
ちで言っただけかもしれないけど、
言われた方の立場としてはとても辛
く、その一言で死を選ぶ人も同じや
少なくありません。

私もその1人でした。私はいろんな
ことを言われて、誰にも相談でき

ず、親にも言えず、いつのまにか自
分の気持ちを押し殺し始めました。
しかし、友達が手をさしのべてくれ
ました。その友達は唯一何でも言い
合える関係でした。だから、私は思
いきって相談しました。すると友達
は「生きられる人が死にたいって
言ったら、生きたくても生きられん
人はどうなるか。」と言いました。

死にたいと思った自分が恥ずかし
かったです。だからこそ生きていく
大切さや命の尊さを実感していくの
かと思います。

私はみなさんに障がいということ
を誤解して欲しくありません。見たら
うつるとか、触つたらうつるとか冷
静に考えればそんな事はありません
ことくらい分かるはずですよ。だから
といってかわいそうとか言う同情も
必要ありません。私はこれからも就



「父のいっ」

矢部高校 (生活・園芸科)
2年 藤川 千鶴



リウマチという病気には、関節リ
ウマチと筋肉リウマチの2種類あり
ます。どちらも治るまでには、長く
治療を続けなければなりません。私
の父は関節リウマチという病気にか
かっており、現在、治療中です。

父が20歳の時の話です。会社勤め
をしていた頃、機械で腕をはさみ、
手術を受け、懸命にリハビリを行っ
たそうです。右腕のひじあたりに熱
や痛みを感じ取れないと聞きました。
この腕のけがは、障がいの一つ
であり、障害者手帳を持っています。
父の障害者等級は、3級です。私は
障害者等級があるのを初めて知りま
した。

関節リウマチが発症したのは、49

歳の時と聞きました。運転中、ヒザ
に痛みを感じたのが始まりだったそ
うです。今でも、病気を治っておら
ず、毎日薬は欠かせないし、天候の
変化で体調も変わるし、仕事も限ら
れています。この数年間、いろんな
出来事や想いがあったはずですよ。で
すが、父なりに乗り越えてきたから
今の父がいると思います。

右腕の障がいは、あまり気になら
ないが、リウマチは自分の身体が、
自分の思うとおりに動かせないのが
辛いとききました。私は一緒に住ん
でいるからこそ分かることはあるけ
れど、父の気持ちは、聞いて初めて
知りました。私は父にある質問をし
ました。それは夢についてです。病
気にかかったことにより、今までと
は別の世界にいるわけで、やり残し
たことはないのか、やりたいことは
ないのか、と疑問に思ったからです。
父は、健康な人と同じことができ
れば最高だけど、今の自分よりもつ
と苦しんでいる人がいるのだから、
人の痛みを分かる人間でありたいと
想いがあるそうです。父の病気に対
する気持ちは、大きいもので、簡単
にこわれることのないものだと感じ

ました。自分が辛いとき、周りにはたくさん
の人がいて、支え合う
ことだつてできます。
父の身体を心配する祖
母、妹のおばさん、そ
れに私たち兄弟も父を
心配しています。父は、
病気の身体でありなが
ら、ご飯を作ってくれ
たり、送り迎えなども
してくれま。私たち
が一番考えなくてはな
らないのは、父の身体
のことだと思ひます。

これから先、父の病
状や私たちの将来、何
があるか分かりません。
私にはまだはつきりし
た夢はありません。だ
けど、父の話を聞いた
ことを無駄にしてはい
けないと思ひます。思
いやりの気持ちを大切
に、たくさんの方との
出会いを大切に、自
分らしく生きていきたく
いです。

人権同和問題講演会

12月6日、浜町体育館で行われた人権同和問
題講演会へ山都町人権の集い。約300人の
出席のもと開かれた集いでは、このページで紹介
する人権作文の発表に続いて、猿まわしの
「反省ボード」で全国的な人気者になった村崎
太郎さんが、「橋はかかる被差別部落に生ま
れ育つて」と題して講演しました。著書やテ
レビなどで被差別部落出身を告白した村崎さん
は、これまでの体験を通して「みんなで差別
をなくしましょう」の呼びかけだけでは解決し
ない。自分が結婚するとき、相手が部落差別の
問題を真剣に考えてくれたように、一人ひとり
が自分の問題として向き合わなければいけな
い」と訴えかけました。



講演する村崎太郎さん